

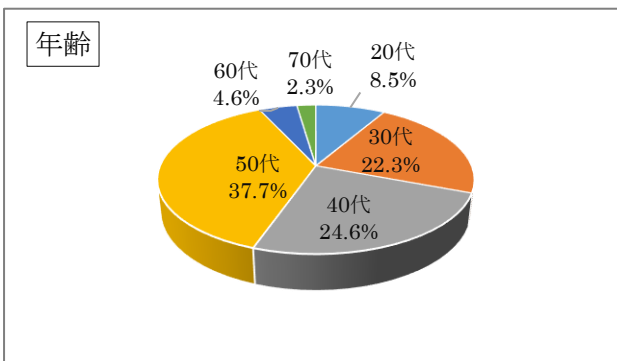
# 熊本地震における歯科衛生士の災害支援活動に関する意識と取り組みについてのアンケート調査報告

**【目的】** 熊本地震における歯科衛生士の支援活動の実態を明らかにすることで、今後の被災地における歯科衛生士の迅速かつ円滑な災害時支援活動を効果的に行なうことを目的とする。

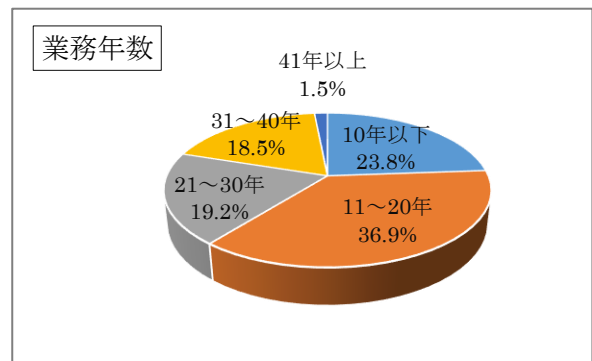
**【実施状況】** 調査対象：熊本県在住の歯科衛生士  
(熊本県歯科衛生士会会員および以前会員登録していた歯科衛生士)  
調査方法：自記式質問紙による郵送調査を実施した。  
調査期間：2017年11月～12月  
回収状況：調査対象者700名のうち、167名(回収率23.9%)から回答が得られ、そのうち130名を有効回答とした。

**【倫理的配慮】** 質問紙を郵送する際、本研究の意図を明記した文書を同封した。また、無記名にて回収し、返送された質問紙に番号を付与し、番号により管理することで、データ入力・分析時に個人が特定できないようにした。また、質問紙は研究期間中厳重に管理し、研究目的以外に使用されることは一切ない。研究報告終了後は、シュレッダー処理により確実に破棄する。

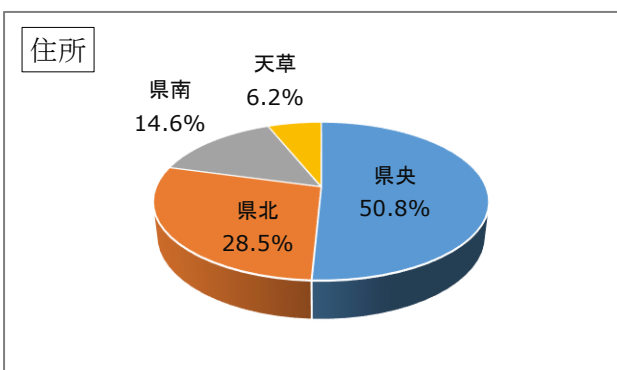
**【結果】** 基本属性 n = 130



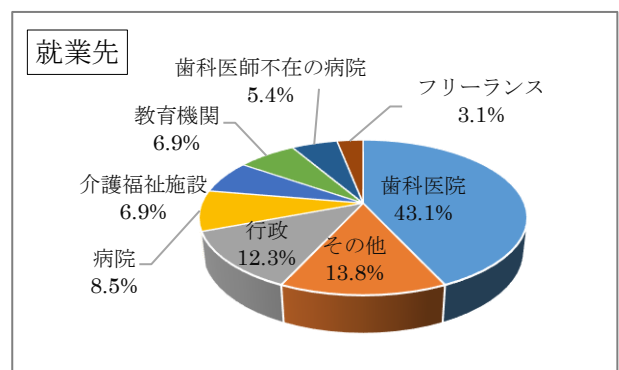
・平均年齢は、46.0歳



・業務年数は、平均19.2年

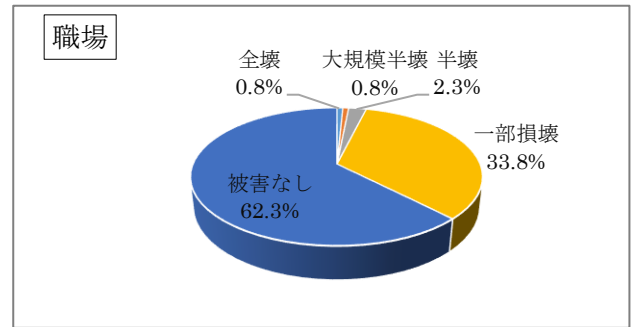
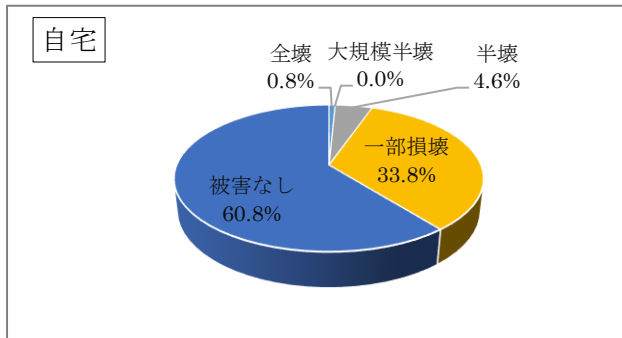


・県央(熊本市・宇土市・宇城市・上益城・下益城)が、半数の50.8%を示していた

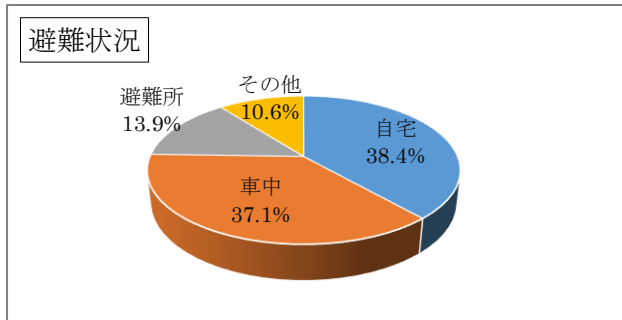


・就業先は、歯科医院が最も多く43.1%を示していた

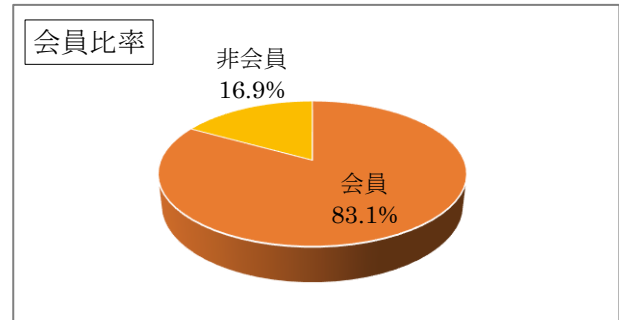
被災状況



避難状況

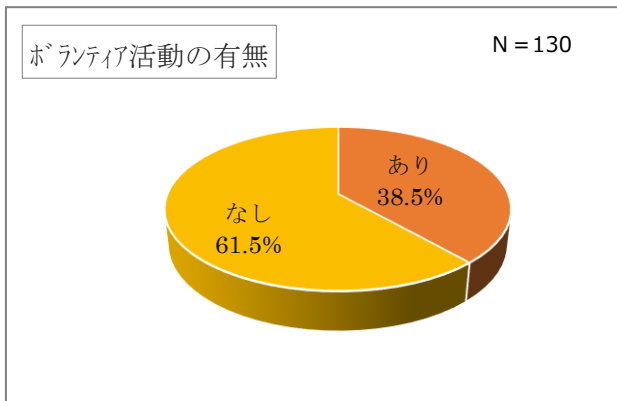


会員比率



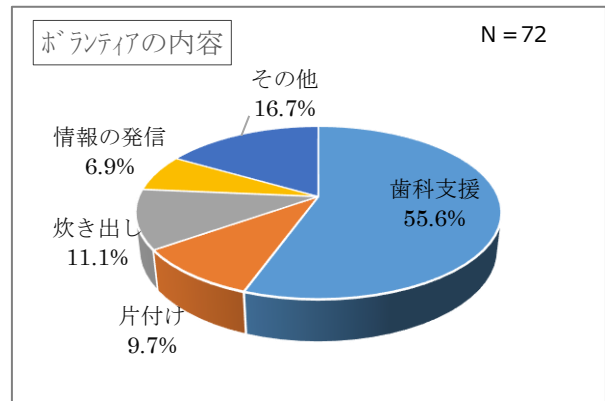
【アンケート集計の結果】

問Ⅰ. ボランティアをされましたか？



・「ボランティアをした」方は 38.5% (50 名)、「しなかった」方は 61.5% (80 名) である

問Ⅱ-1. ボランティアの内容は？ (複数回答)

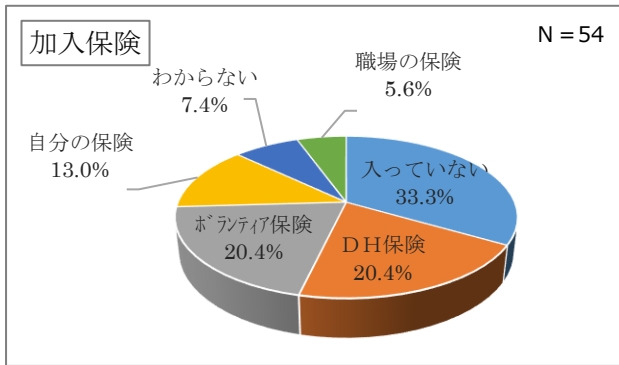


・「歯科支援」を行った方が 55.6% (40 名) を占めている

問Ⅱ-1. その他のボランティア内容の内訳 (12 名)

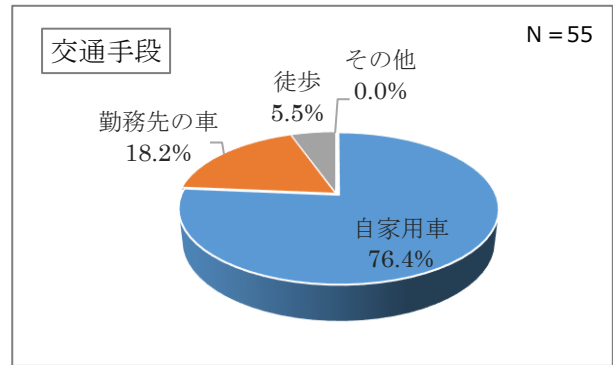
- ・ 後方支援 (茶話会・花壇づくり)
- ・ ボランティアの調整
- ・ 行政の資料整備、証明書発行
- ・ 近隣の小学校での手伝い
- ・ 傾聴ボランティア
- ・ 水・風呂の提供
- ・ 職場の後方支援
- ・ ボランティアセンター受付
- ・ 介護支援専門協会
- ・ NGO 各団体とのミーティング
- ・ 物資配送
- ・ 支援物資収集配達

問Ⅱ-2. 活動にあたって保険に入っていましたか？  
(複数回答)



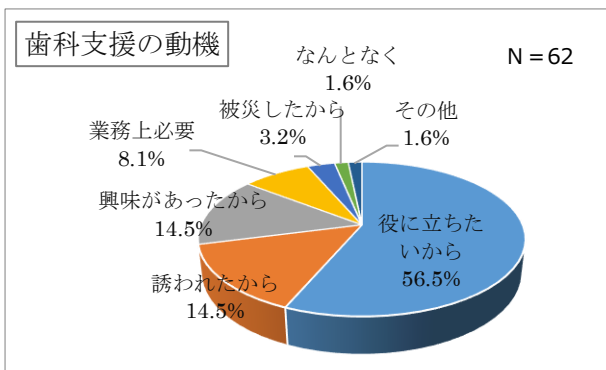
・「歯科衛生士の会に加入」していた方は、20.4%何も加入していない方は33.3%を占めている

問Ⅱ-3. 活動に向かう時の交通手段は？  
(複数回答)



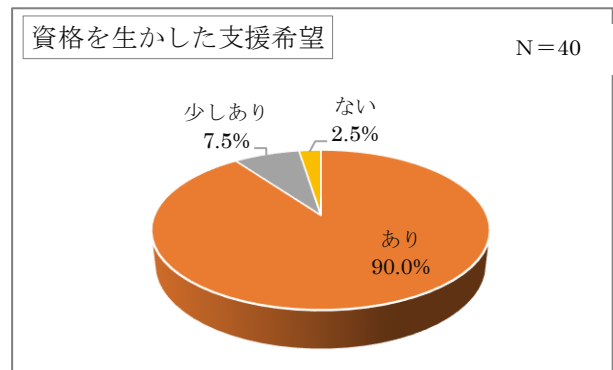
・「自家用車」で活動に向かった方が76.4%と8割近くを占めている

問Ⅱ-4(1). 歯科支援に参加した動機はなんですか？  
(複数回答)



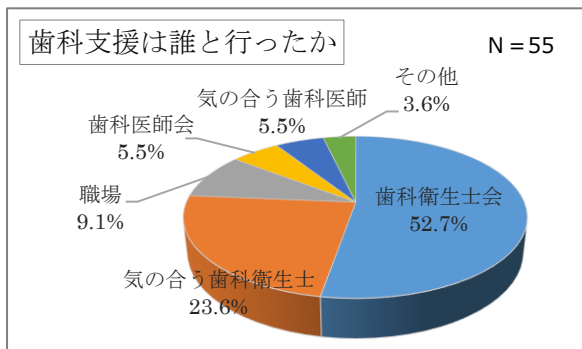
・「役に立ちたいと思ったから」の動機が、56.5%と5割以上を占めている

問Ⅱ-4(2). 歯科衛生士の資格を生かして歯科支援したい気持ちはあったか？



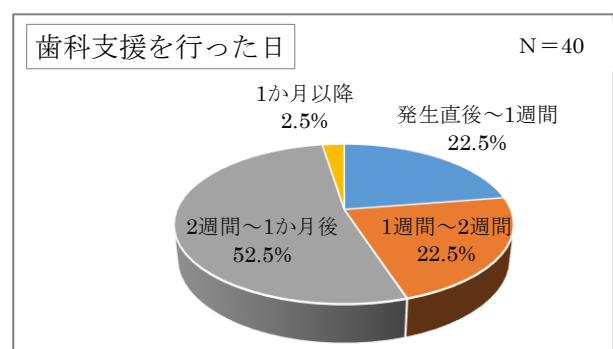
・90.0%と9割の方が「資格を生かして歯科支援をしたい気持ちがあった」と回答している

問Ⅱ-4(3). 誰と行いましたか？ (複数回答)



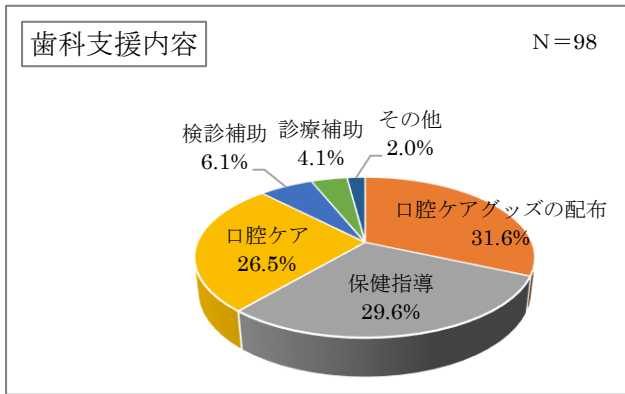
・「歯科衛生士の会」52.7%、「気の合う歯科衛生士」が23.6%を占めている

問Ⅱ-4(4). 初めて歯科支援を行った日はいつですか？



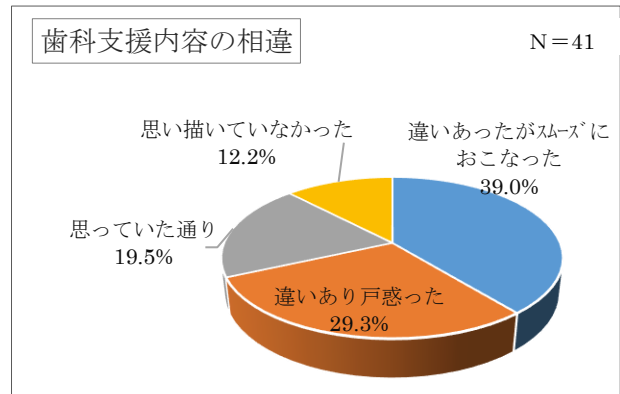
・「2週間～1か月後頃」が52.5%と最も多く、「発生直後～1週間」は22.5%を占めていた

問Ⅱ-4(5). 歯科支援の内容は？(複数回答)



- ・「口腔ケアグッズの配布」31.6%、「保健指導」29.6%、「口腔ケア」26.5%となっている

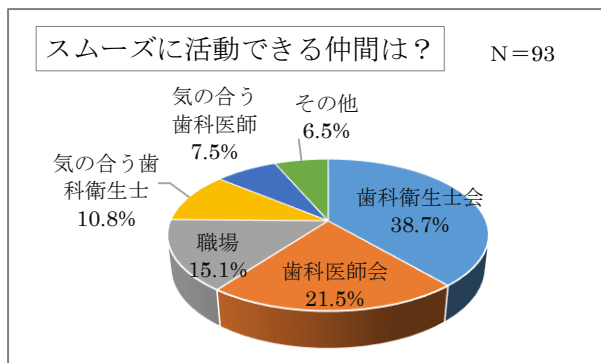
問Ⅱ-4(6). 歯科支援の内容は思い描いていたものと違いはありましたか？



- ・「違いがあったがスムーズにおこなった」は39.0%と最も多く、「違いがあり戸惑った」は29.3%を占めている

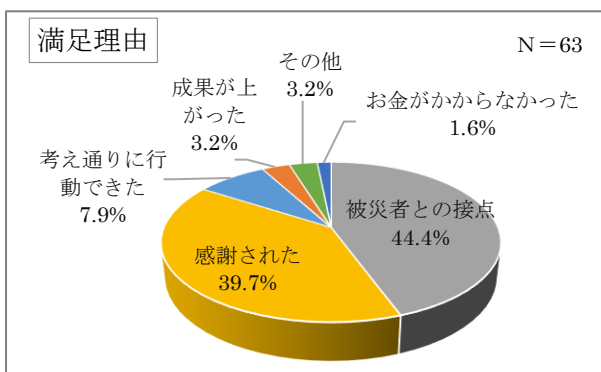
問Ⅱ-5. 災害歯科支援活動を行う場合どんな仲間と行くとスムーズに行動できると思いますか？

(複数回答)

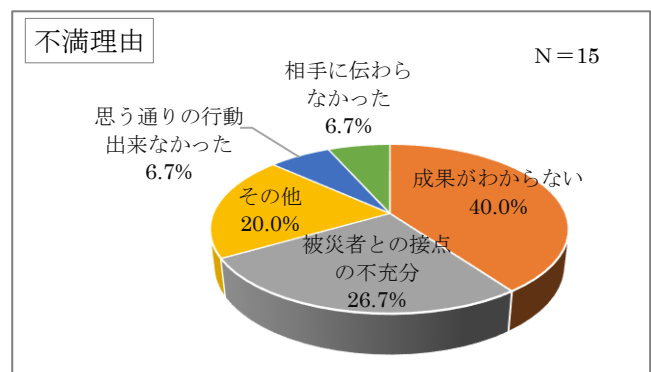


- ・「歯科衛生士会」38.7%、「歯科医師会」21.5%「職場」15.1%、「気の合う歯科衛生士」10.8%であり、「その他」6.5%の内容記載はなかった

問Ⅱ-6. 活動に関する感想



- ・「被災者の方と接点がとれた」44.4%「感謝された」39.7%と被災者との関係が高い割合を占めている

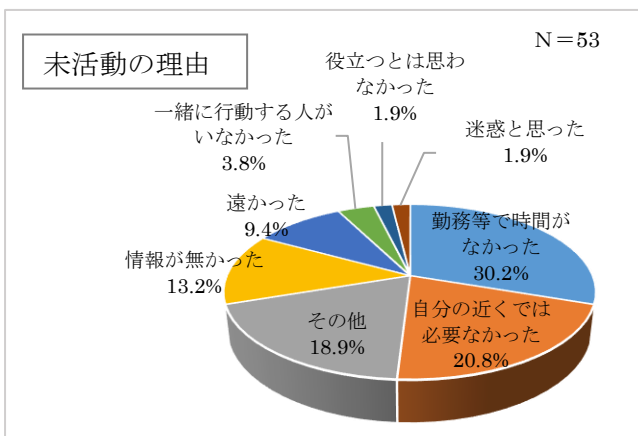


- ・「成果がわからない」40.0%、「被災者との接点」が不十分だった」26.7%と高い割合を占めている

問Ⅱ-7. 歯科支援活動を行う上で一番困ったことはなんですか？（自由記載）

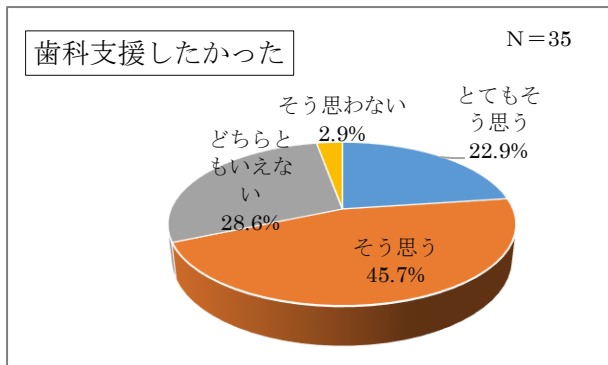
- ・状況の引き継ぎ
- ・交通手段がない
- ・目的を統一して活動を行う
- ・全理事は支援活動に参加出来ない状態だったのか？連絡するDH会の役員がいなく戸惑った。災害フォーラムに参加したDH会役員の内容が反映されていることを願う。
- ・支援したいが方法が分からない。チーム行動が理想的だが取りまとめてくれる所が事前に分からなかった。
- ・情報の引き継ぎがわからなかった。他団体との連携がわからなかった
- ・名刺を持参したので良かったが、怪しい目で見られる所もあった
- ・活動範囲がはっきり分からなかった
- ・その場で判断出来る程度の事前勉強の必要を感じた。書式に困惑した。
- ・水の使用制限
- ・状況把握までの不安緊張、引き継ぎや情報が必要
- ・問い合わせと流れの把握・支援の許可に手間がかかる
- ・連絡・指示系統の混乱
- ・支援の在り方が統一されていなかった
- ・指示待ちに時間がかかった早めの対応希望。連絡網が把握出来なかった
- ・避難所のニーズがつかめなかった。支援が望まれているのかの戸惑いあり。
- ・物資を配布するのに、目的地に行くのに時間がかかった
- ・交通手段・連絡手段の不徹底
- ・連携の担当が変わるので徹底しないこと
- ・すぐに必要なものを届けることができなかったこと。次の日になってしまったことがあった。写真等の記録を残してあげればよかった

問Ⅱ-8(1) ボランティア等活動をしなかった理由は？  
（複数回答）



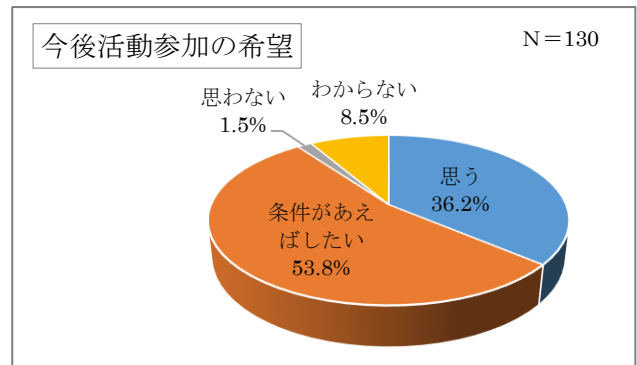
- ・「勤務等で時間がなかった 30.2%、  
「自分の近くでは必要なかった」 20.8%と  
高い割合を占めている

問Ⅱ-8(2) 今回の災害で歯科支援をしたかったと思いますか？



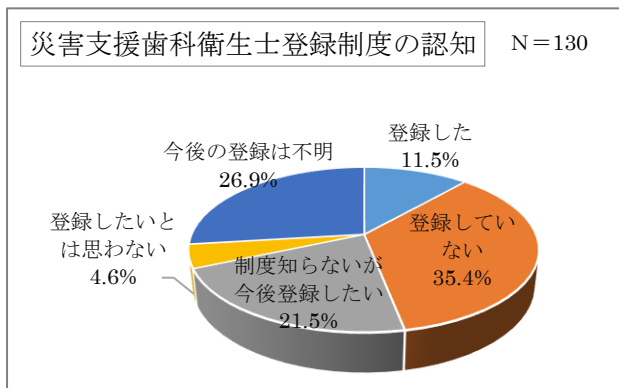
- ・「とてもそう思う」22.9%「そう思う」45.7%、の合計が68.6%と7割近くが支援したかったことがうかがえる。

問Ⅱ-9. 今後災害歯科支援が必要な時に参加したいと思いますか？



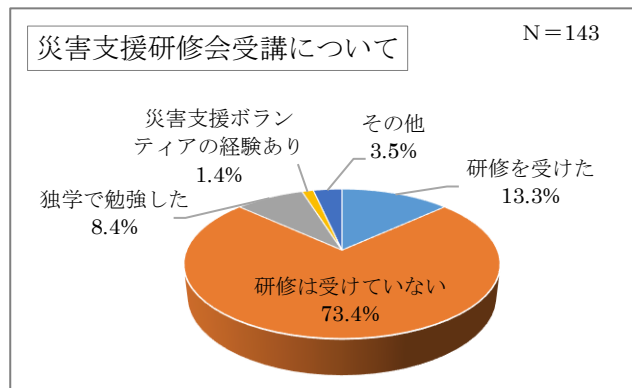
- ・「思う」36.2%、「条件が合えばしたい」53.8%の合計が90.0%と高い割合を占めている

問Ⅱ-10. 日本歯科衛生士会では災害支援歯科衛生士登録制度がありますがご存知ですか？



- ・「登録した」11.5%と低い割合を示している

問Ⅱ-11. 今までに災害支援の研修を受けたり勉強した事がありますか？（複数回答）



- ・「研修を受けていない」73.4%と高い割合を占めている

問Ⅱ-12. 今後の災害支援活動に関して熊本県歯科衛生士会に希望する事を教えてください(自由記載)

#### 情報の発信について 連絡網の徹底

- ・災害時の支援活動に必要な情報が欲しい
- ・会や各支部の災害支援活動報告書を希望する
- ・災害衛生士登録知らなかった、情報発信した方がいい
- ・会員の早急な安否確認。多くの方への派遣指示の連絡
- ・活動の調整と情報共有が迅速であることを希望する
- ・協力依頼内容を早く広く周知して欲しい
- ・災害支援の活動をされた各地のDHの動きが知りたい。県DH会の今後の対策を教えてください
- ・避難所のみならず、歯科の必要性の情報収集が出来ればDHの存在価値も高まり認識に繋がる。縦横の連絡手段が大切である。
- ・早急に連絡網を徹底して欲しい
- ・支部に連絡いただき各会員に連絡してほしい
- ・支部での安否確認を確立してほしい

## 研修について

- ・フェーズ別の活動内容など定期的な研修が必要。
- ・研修の継続
- ・研修会・組織での活動の拡大
- ・準備物・心構え等の必要な研修会を希望する
- ・呼びかけの手段の確立で人材確保に繋がると思う、それに繋がる研修会必要
- ・講演会やセミナーが身近なものになれば良いと思う

## DH会の体制づくり

- ・災害時の地域別連携パスの作成と周知
- ・日衛決定の情報は会員に共有して頂かないと容易に協力できない。支援体制を整えて欲しい
- ・事態に備えた体制作りを会員に発信して欲しい
- ・役員のみで動くのではなく活動内容を告知し協力を得るのが大事ではないか
- ・仲間内でボランティアを集めないでほしい。歯科衛生士の組織として全員に発信してほしい
- ・災害時の地域別連携パスの作成と周知
- ・希望したが人員過剰と仕事で参加できなかった。希望者が無駄にならないシステム希望
- ・支援活動本部の充実（活動記録の整理、把握、周知、責任者の設置）
- ・県DH会の4役・理事の連絡活動希望。担当理事には支部会員の質問にスムーズに回答頂きたい  
小さな積み重ねが災害支援活動に関わっているとはっきりわかった
- ・組織としての支援活動力の向上、従属意識から独立意識への転換が必要

## 支援の方法

- ・子育てをしながらの支援について検討希望
- ・現地に行くことの出来ない人でも出来る支援
- ・仮設住民に口腔体操や歌で口腔機能の維持を支援していきたい
- ・完全復興できるまでの支援を考えて頂きたい

## その他

- ・徹底的に必要な対策を練る、有効活用できる資料の作成。連携システム作り。キーマンを明確に
- ・熊本歯科衛生士会の統一したネームプレートがあったら良いと思う
- ・活動が分からなかった
- ・無理のない組織での活動、お互いに理解し合える状況を希望
- ・DMAT、JMAT、DH会の南阿蘇の口腔ケアへの協力に感謝します
- ・県歯科衛生士会で災害時支援活動マニュアル等があれば会員に配布していただきたい
- ・参加する人数調整から連絡だけでも煩雑だったと思う。これを機に有事の際に迅速に活動できる体制が整うことを望む
- ・自分の衣食住が整ってから支援活動に参加したいと思います
- ・必要なものが素早く届けられるようなシステムを考えてほしい
- ・何日も断水が続く中、出勤しなければならなかった。こんな思いをした歯科衛生士が沢山います。歯科衛生士会として、まずは歯科衛生士を守ってほしい。求められる仕事内容はハードにも関わらず、待遇の低さ、地位の低さを改善してほしい。サービス残業・パワハラ・マタハラ等について歯科衛生士としてどの程度把握していらっしゃいますか？
- ・組織が個人の善意ボランティア活動にクレームつけているとの情報に違和感をもった

公益社団法人 熊本県歯科衛生士会

柴原聖子 中村昌代 豊永久美 坂本由美 古川由美子 越川由紀

2019.08 改訂